

福村 愛理さん

Fukumura Airi

Profile

加賀市生まれ。個人事業で福村板金を立ち上げた父の背中を見て育つ。自慢の父の力になりたいと、金沢星稜大学経済学部に進学し、経営を学ぶ。大学を卒業した2020(令和2)年に福村板金に入社。現在、加賀青年会議所の事務局次長としても活躍。



「ものづくり」だけでなく 「仕事づくり」にも携わる

建築板金は技術が基本の業界ですが、「ものづくり」だけでなく、「仕事づくり」も大切な仕事です。福村愛理さんは、この業界に入って3年目。基礎となる板金技術を学びながら、「仕事づくり」に関わる知識を増やし、人脈を広げているところです。

福村さんが小学生の頃、父の貴司さんが個人事業で福村板金（加賀市）を起業しました。「その当時は、建築板金がどんな仕事なのかは分かりませんでしたが、父が現場を飛び回って忙しく働いていることは分かりました。明るく、前向きに、そして一生懸命に仕事に取り組む父の姿が身近にあったことで、長女である自分が仕事を受け継ぎたいと思うようになりました」

福村さんは経営について学ぶため、小松商業高等学校を経て金沢星稜大学経済学部に進学。卒業と同時に福村板金に就

職しました。

経営の知識を周りから学び、 福村板金の存在を周りに発信

今は事務作業を行う傍ら、営業として工事の段取りをしたり、職人として現場に出たりと、マルチタスクをこなしています。

営業としての福村さんは、人脈を広げるため、福村板金に入社したタイミングで加賀青年会議所（加賀JC）に入会しました。『大学を卒業したばかりの22歳の女性が会員になる』という話は、いろんな点で加賀JC史上初だと言われました」と笑う福村さんですが、さまざまな業界の経営者やビジネスパートナーと交流することで、学ぶことはたくさんあります。

同時に、建築板金業界は世の中あまり知られていないことに気づきました。板金といえば自動車の修理のイメージがあり、「金属板を加工して屋根や外壁などを施工する建築

株式会社福村板金（加賀市）

現社長の福村貴司さんが、2005(平成17)年に起業、2021(令和3)年に法人化。板金加工の大半は外注化し、板金工事に特化している。「小さい会社でも、しっかり人材を育て、加賀市を引っ張っていく存在になりたい」と福村社長。【所在地】加賀市黒崎町又104番地【資本金】500万円【代表者】福村貴司



未来を語る
=ごき語る未来

仕事の夢 人を育て、 会社を育てたい

若い職人さんが働きやすい環境を整え、父が立ち上げた会社を自分が大きくしていくたいです。私らしさも大切に！

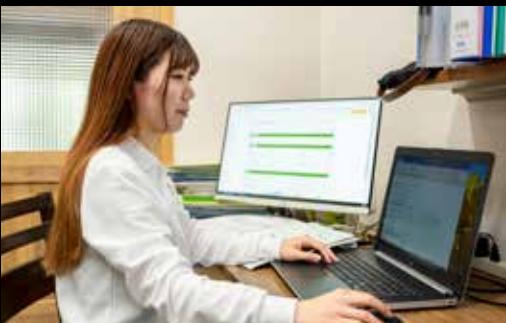
建築板金職人までの道のり

◎家業を継ぐべく、小松商業高等学校から金沢星稜大学経済学部に進学

◎(株)福村板金に入社、加賀青年会議所(加賀JC)に入会

◎入社2年目の年に、卒業する母と入れ違いで建設共同高等職業訓練校に入校

「現場ごとに覚えることはたくさんありますが、『日々成長』をモットーに向上心を持って取り組んでいます」(福村さん)



古い納屋をカフェ風に改装した事務所。左官職人の技が光る内装もおしゃれなんです



職人の こだわり

休憩時間は、お気に入りのグラスにアイスコーヒーを注ぎ、デザートにちょっとこだわって

6位に入賞した実力者でもあります。

「この業界で女性はまだまだ珍しく、現場に立つと『かっこいいね』とお客様に褒めてもらえることもあります。女性でも普通に活躍できるんだということを、たくさんの人に知ってほしいです」

福村さんは、建築板金の専門的な知識・技術を持った次世代の経営者として、一步一歩成長しています。

